

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 248 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2017.12.20

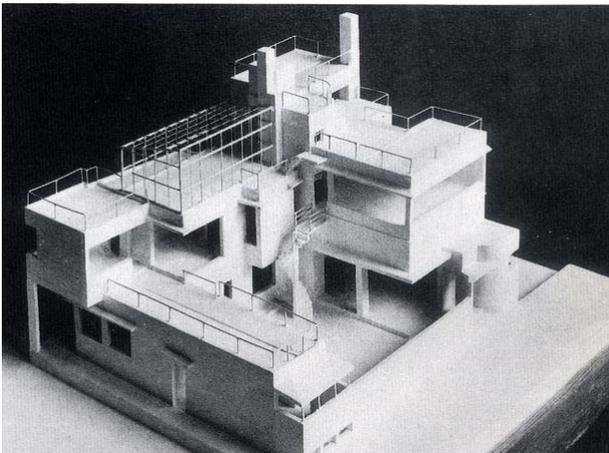
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 14 回

話：三沢浩

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド第 9 回(スライドIX)

■ 寺子屋 248 は 6 人の参加で開催されました。

■ 世界のモダニズム建築に対する F. L. ライトの影響はその底流において多様ですが、日本の初期モダニズムではその独特な造形が中心でした。しかし、A. レーモンドはライトの影響を乗り越えるために、他の様々なデザイン思潮のとり入れだけでなく、構造の考え方、近代にとっての素材、そして「合理性」に対する規範など、近代を構成する根底的な課題に取り組んでいきます。



アントニン・レーモンド「霊南坂の自邸」



遠藤新

「甲子園ホテル」



新建・寺子屋(モダニズムの研究)248

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
2017年12月20日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 14 回

日本の初期モダニズムとアントニン・レーモンド 第 9 回
(スライドIX)

1. 前回のスライドⅧへの補足

- 1) レーモンド「自邸」の「デ・スタイル派」の細部
- 2) デ・スタイルの建築の具体的作品
- 3) ニューヨーク、タリアセン、第 1 次世界大戦参加の歴史
- 4) 「帝国ホテル」から独立時代の変化
- 5) 「女子大」や「星商業」のチェコ・キュビズム
- 6) ライトの影響から逃れる努力の結果

2. 今回のスライドⅨのポイント(藤森著にない部分も)

- 1) 「帝国ホテル」とライトの弟子、遠藤、田上、土浦他
- 2) 遠藤新の作品か、ライトの作品か(山邑邸／明日館)
- 3) レーモンドのたどった「デ・スタイル」以外の道
- 4) 庭に生えた茸のような日本の民家

3. レーモンドのたどったモダニズム建築とは

- 1) 藤森推賞の「霊南坂の自邸」の意義とその後
- 2) ライトの影響を直接受けた作品
- 3) 逃れるための 10 年間の苦労の裏にあった方法論

4. 「帝国ホテル」以後のライト式又はライトの影響

- 1) 遠藤新の「甲子園ホテル」はライトのレストランにヒント
- 2) 田上義也は北海道で成功したが・・・
- 3) 「ライト式」といわれた菅原栄三、下元連の仕事
- 4) ライトの元で影響を受けた日本の弟子たち

5. レーモンドの戦前の仕事について、少々

次回 <寺子屋 249> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 15 回

話：三沢浩

2018年1月17日(第3水曜日定例) PM 7:15～

場所：新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400 円

問合：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com